

北海道アウトドアフォーラム 2020

趣旨 北海道の大自然を活動の場にする、教育・観光・施設等の関係者が一堂に会し、情報交換や交流を行うことで、青少年の体験活動の推進を図るとともに、地域ミーティングや若手研修会など、団体や立場を超えた取り組みやつながりを生み出し、道内の自然体験活動や野外教育活動の振興に資する。

企画運営のポイント 新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、企画段階の会議から当日運営、参加費の徴収を含めてオンラインで実施した。

テーマ：自然災害や感染症と共に生きる北海道アウトドア

期日：令和2年12月2日（水）

会場：国立日高青少年自然の家（オンライン配信）

対象：道内のアウトドア事業者、自然体験活動団体職員、青少年教育施設職員、教育関係者、行政職員等

人数：143名



HOKKAIDO OUTDOOR FORUM 2020

オンライン

自然災害や感染症と共に生きる北海道アウトドア

12/2 WED
9:30~16:30

申込方法 オンライン会議システム（Zoom使用）

参加費 第1部のみ参加 無料
第1部&第2部参加 1,000円

参加定員 第1部のみ参加 200名（興味のある方）
第1部&第2部参加 70名（7:15以降関係者）

申込期間 2020年11月3日（火）～11月22日（日）

主催 国立日高青少年自然の家
北海道アウトドアフォーラム専門委員会

共催 北海道アウトドアフォーラム実行委員会

北海道アウトドアフォーラム事務局
国立日高青少年自然の家
TEL:0142-6-2311 / E-mail: hokkaido-hq@nhye.go.jp

参加のお申込みはコチラから→
※事務局へ、プログラムと参加方法等について、事務局からご質問いただいたe-mailアドレスは返信させていただきます。（11/24締め切り）

プログラム

【第1部】（10:00～14:00）①基調講演「自然災害や感染症と共に生きる北海道アウトドア」②トークセッション
講師 岡田 悠偉人 氏（ハワイ大学 疫学専門家）、安田 稔 幸 氏（北海道運輸局観光部 部長）

鈴木 宏一郎 氏（北海道宝島旅行社 代表取締役社長）、横山 三四郎 氏（株式会社 Chomolungma 社長）

進行 ロバート・トムソン 氏（北星学園大学 専任講師）

【第2部】（14:20～16:30）①オンラインワークショップ ②ふりかえり&ネットワーキング ③閉会式

- ・井内 聖氏（早来こども園）『防災拠点としてのこども園運営について』
- ・高橋 正昇氏（シダースコミュニケーションズ）『インバウンドの潮流・中国&東南アジア市場の可能性とその対策』
- ・新野 和也氏（NPO 法人どんころ野外学校）『災害や感染症に対してどの様に対応し、どう今後に生かすのか』
- ・能條 歩氏（北海道教育大学岩見沢校）『バーチャルで自然体験はどう拡張できる？』
- ・山口 雅嗣氏（真狩焚き火キャンプ場）『ITを活用したキャンプ場運営』
- ・阿部 晋也氏（マドリカ）『キャンピングカーを活用したアウトドアネットワーク』
- ・上田 融氏（いぶり自然学校）『災害時に活躍するスマートモデューロ』
- ・寺岡 祐子氏（森のようちえん森のたね）『行政と幼児教育・コロナ禍における野外教育』
- ・宮下 桂氏（厚真町教育委員会）『大規模非常災害時の子どもの居場所づくり』
- ・RonanMaguire 氏（Whiteroom Tours）『Short and long term challenges to inbound ski tourism』

【成果】

- ・疫学や行政等の専門家による立場から、北海道の恵まれた自然を生かした体験活動の素晴らしさが世界に通じるものであることや、今後のアウトドア業界の目指すべき方向性や展望について等の多くの示唆を得られた。
- ・感染症が拡大する中で、オンライン開催という新たな運営方法により事業展開することができ、今後の効果的な事業運営に向けた具体的なノウハウを開発することができた。

【課題】

- ・オンライン開催にあたり、今回の担当職員の高い調整能力や ZOOM などについての知識が生かされたが、得られたノウハウを職員で共有して活用できるようにすることや、オフラインとのバランスを考える必要がある。